



高島藤樹会

(題字は、竹脇豊卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740 (32) 4156
<http://takashima-tojukai.com/>

藤樹先生に学ぶ



高島藤樹会 理事
嬉野 公人

中江藤樹先生の教えとの出会いは、小学校時代に遡ります。小学校で中江先生の「良知」の教えなどを学んだ記憶がそれです。次は、だいぶ年月が経ち、高島高校に勤務している頃、日本史の授業で、先生は陽明学を学び、知行合一の実践を重視する教えを広めたと教えました。また、職員トイレに「五事を正す」の張り紙があり、毎日これを拝読しながら用を足していました。その後、県教育委員会勤務時代には、普段付けていた名札の裏側に、県教育委員会が定めた、子どもたちに大切にしてほしい滋賀県の先人の5つの心「近江の心」の一つである、生まれながらにしている美しい心「良知の心」が書かれたものを入れていました。さらにその後、膳所高校の校長時代、校長室に掛けられていた膳所藩出身で昭和天皇や香淳皇后に御進講され、藤樹先生を深く敬慕し、藤樹神社の建立にも尽力した杉浦重剛の揮毫の書の中で「近江聖

人」として賞賛されているのを毎日拝見していました。こうして考えてみると、意識せずとも藤樹先生の教えの中で過ごしていたことに気付かされます。

そして、藤樹会の理事を引き受けて4年、会に参加するようになり学んだこともあります。令和4年6月の「心のセミナー」で拝聴した吉田公平先生の講演で、藤樹先生の実践を大切にする教えや、自己がどのよう生きようとしているかが大切だということをお説かれ、より良く生きる指針を模索された人だということをお教えていただきました。また、門人との書簡のやり取りの中で、「退屈するな」という言葉をしばしば使われており、「課題を放棄して安逸に逃げることなく、課題を冷静に把握し、自己の力を推し量って、できる範囲で立ち向かう努力をすべし。」「学問は、人々によつて良いことになるかどうかを考えて学ぶことが大切」と教えられていたことなどを学びました。

さて、これからの社会は急速に変化し、解決すべき新たな課題が増え、しかもその変化は先行きが不透明で、予測が難しいと言われています。感染症の世界的な流行や温暖化による大きな災害などもその一つです。このような社会を生き抜く、あ

るいはこのような状況の中にあつて持続可能な社会の創り手となるために、子どもたちには、「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」を育てていくことが大切になっていきます。また、この状況を乗り越えていくためには、将来の社会の在り方について自分事として考え、より良い社会をどのように実現していきたいか、自ら目標を設定し、そのために必要な変化の実現に向けて行動することが大切になります。また、「あたりまえ」だと思っていたことに疑問を持ち、これまでの価値観や常識にとらわれず、適切でないとするならばどう変えるべきか、どうすれば変えられるのかを考える姿勢や行動力を持つことが、この時代や社会を切り拓く原動力になってきます。

今、学校現場においては、こうした力を身に付けるための様々な教育実践が行われていますが、実践を重視された藤樹先生の教えは、400年の時を超えて、今、子どもたちに身に付けてほしいとされている力を考える上で大変参考になると感じます。

教育に携わる者として、先生の教えを今一度、子どもたちとともに学び、よりよい社会・未来をつくりていきたいと思ひます。